

株主通信

2021年11月

YBHD NEWS No.62



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911



代表取締役社長
高田 和彦

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに株主通信「YBHD NEWS」第62号をお届けいたします。

近年、未曾有の被害をもたらす大地震や市街地が冠水するような水害が多発しており、こうした自然災害に強いインフラ整備が急務となっております。国内では、こうした社会情勢を受け、既存施設の保全事業が右肩上がり増加しており、特に高速道路の大規模更新・大規模修繕事業が今後も継続していく見込みです。

このような状況下、当社グループにおきましては、橋梁事業につきまして、第1四半期に引き続き、第2四半期においても高速道路関係の大型案件の他、国土交通省および地方自治体案件などの受注を重ねることができました。業績につきましては、長期大型工事の竣工が集中しました前年同期には及ばないものの、設計変更の獲得

などにより営業利益は過去2番目に高い水準となりました。

エンジニアリング関連事業につきましては、システム建築事業において、大型工事の着工ずれ込みなどもあり業績は伸び悩みましたが、受注は倉庫関係に加え工場関係を中心に回復基調にあり、第2四半期は第1四半期の2倍近くとなり、下半期以降は更なる受注量の拡大を見込んでおります。

先端技術事業につきましては、精密機器製造事業の受注は堅調に推移しており、売上高、営業利益ともに前年同期と同水準の実績となりました。

これらの結果、売上高につきましては、当初予想を下回りましたが、一方で、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、橋梁事業の損益改善が進みため、当初の予想を上回りました。

当社グループは、現在、来年度を初年度とする3か年の第6次中期経営計画を策定中です。コロナ禍の影響などにより変化する事業環境、不透明な海外情勢、ESG(環境・社会・ガバナンス)への取組み等、様々な課題がありますが、社会に必要とされ、持続的に成長できる企業グループに進化することを目指し、グループ一丸となり、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年11月

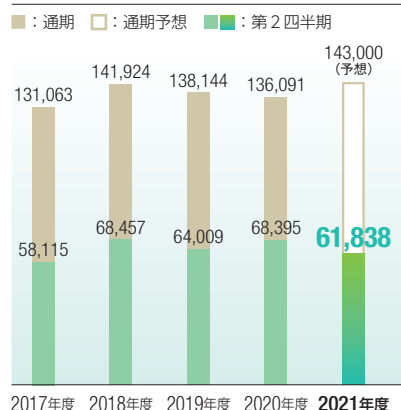
業績については、当社グループの上期の営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益の数値は、それぞれ過去最高を更新した前年同期を下回りましたが、過去2番目に高い水準となりました。

橋梁事業は、概ね順調に推移し、設計変更等による損益改善が進みました。

エンジニアリング関連事業は、システム建築事業の業績は伸び悩みましたが、受注は倉庫関係に加え、工場関係を中心に回復基調にあり、下半期以降は更なる受注量の拡大を見込んでおります。

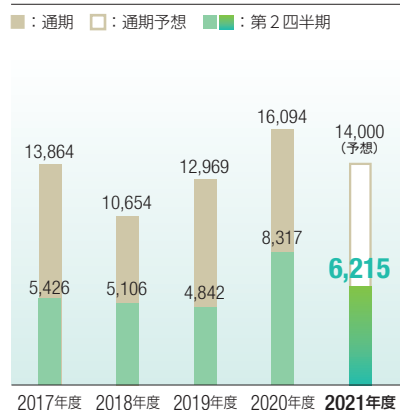
売上高

(単位:百万円)



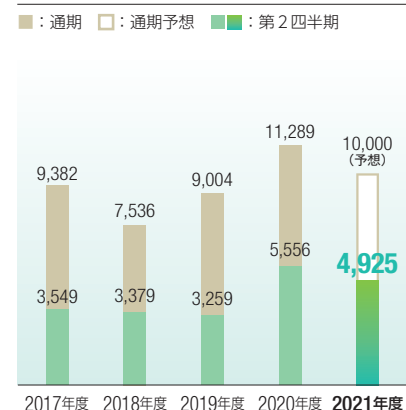
経常利益

(単位:百万円)



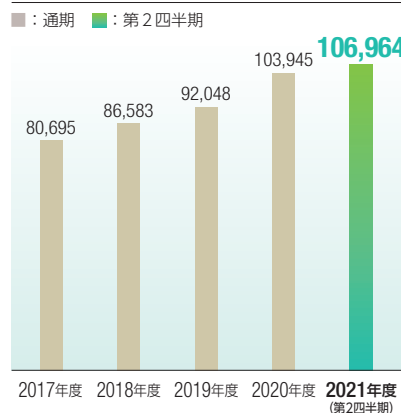
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



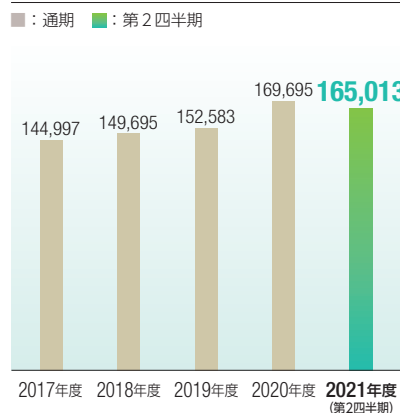
純資産

(単位:百万円)



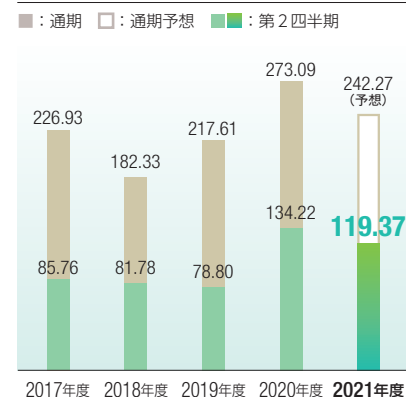
総資産

(単位:百万円)



1株当たり当期純利益

(単位:円)

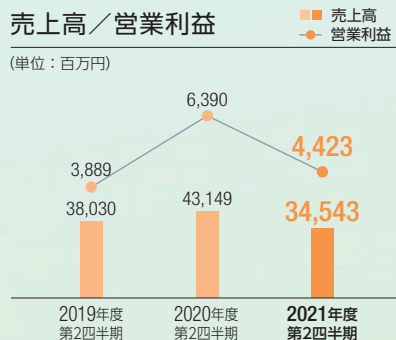


橋梁事業



売上高／営業利益

(単位：百万円)



売上高

43,149 →
百万円

34,543
百万円

営業利益

6,390 →
百万円

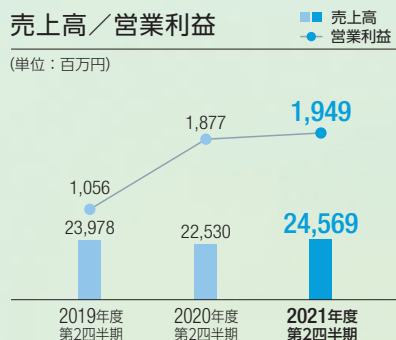
4,423
百万円

エンジニアリング関連事業



売上高／営業利益

(単位：百万円)



売上高

22,530 →
百万円

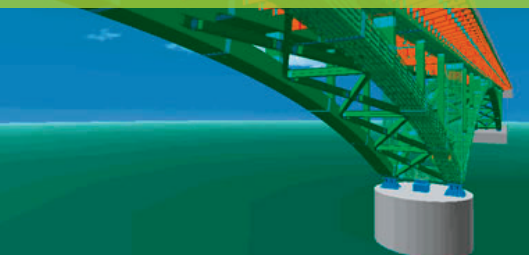
24,569
百万円

営業利益

1,877 →
百万円

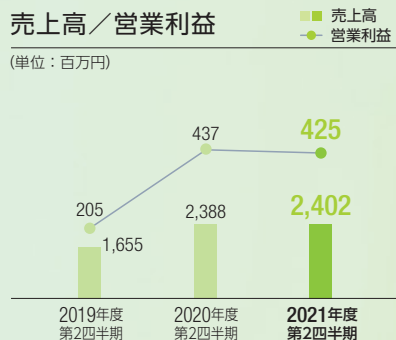
1,949
百万円

先端技術事業



売上高／営業利益

(単位：百万円)



売上高

2,388 →
百万円

2,402
百万円

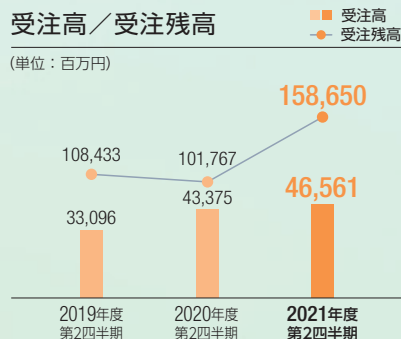
営業利益

437 →
百万円

425
百万円

受注高／受注残高

(単位：百万円)



受注高

43,375 → 46,561
百万円

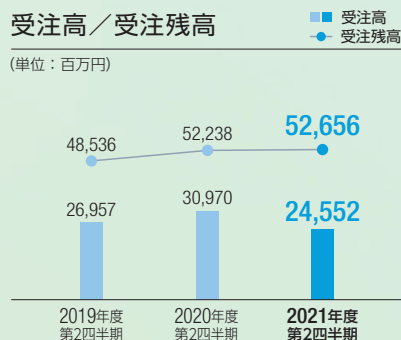
受注残高

101,767 → 158,650
百万円

- 高速道路関係の大型案件の他、国土交通省および地方自治体案件などの受注を重ねた結果、受注高は前年同期を上回り、年度計画に対し約62%の達成となりました。
- 売上高、営業利益は共に長期大型工事の竣工が集中した前年同期実績には届かなかったものの、設計変更の獲得などにより、営業利益は過去2番目に高い水準となりました。
- 通期の業績は、売上高778億円、営業利益90億円と予想しております。

受注高／受注残高

(単位：百万円)



受注高

30,970 → 24,552
百万円

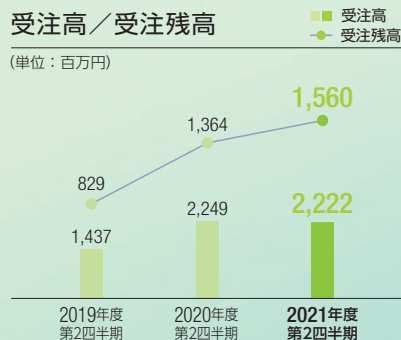
受注残高

52,238 → 52,656
百万円

- システム建築事業の受注が伸び悩んだことに加え、前年同期に海外大型工事の受注がありました。建築機鉄事業の受注減少も避けられず、事業全体の受注高は前年同期を下回りました。
- 業績につきましては、売上高、営業利益共に前年同期を上回りました。
- システム建築事業は、大型工事の着工ずれ込みなどもあって業績は伸び悩みましたが、受注は倉庫関係に加え工場関係を中心に回復基調にあり、下半期以降は更なる受注量の拡大を見込んでおります。また、土木関連事業の生産量は低迷が続きました。
- 通期の業績は、売上高596億円、営業利益53億円と予想しております。

受注高／受注残高

(単位：百万円)



受注高

2,249 → 2,222
百万円

受注残高

1,364 → 1,560
百万円

- 精密機器製造事業の受注は堅調に推移し、受注高、売上高、営業利益は前年同期と同水準の実績となりました。
- 通期の業績は、売上高50億円、営業利益9億円と予想しております。

統合報告書を発行しました



ステークホルダーへの価値へ

業界のリーディングカンパニーとして、「未来へつなぐ」人材と技術を通じて、持続的な成長と社会課題の解決を目指します。

横河ブリッジホールディングスグループは、2019年、環境・社会・ガバナンスに関する課題を整理し、ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点から、経営戦略に統合し、持続的な成長を実現するための取り組みを開始しました。この取り組みの一環として、本統合報告書を作成し、ステークホルダーの皆様へ価値を提供することを目的としています。

本統合報告書は、本グループの経営戦略とESGに関する取り組みを、財務情報と併せてご報告いたします。また、本グループの経営理念や、社会への取り組みについてもご報告いたします。

本統合報告書は、本グループの経営戦略とESGに関する取り組みを、財務情報と併せてご報告いたします。また、本グループの経営理念や、社会への取り組みについてもご報告いたします。

本統合報告書は、本グループの経営戦略とESGに関する取り組みを、財務情報と併せてご報告いたします。また、本グループの経営理念や、社会への取り組みについてもご報告いたします。



主な内容

- 価値創造に向けた成長戦略
価値創造プロセス
- 特集
横河のものづくり
- 価値創造の基盤
研究開発
マテリアリティ(重要課題)
- データセクション
財務情報

横河ブリッジホールディングスグループは、「統合報告書2021」を発行いたしました。

当社グループの「社会公共への奉仕と健全経営」の実現に向けた取り組みを、ステークホルダーの皆様へお伝えするため、新たに発行したものになります。

全体の構成はIIRC(国際統合報告評議会)「国際統合報告フレームワーク」を参考にしており、財務情報および非財務情報については、現状持ちうるデータを整理し、分かりやすい表現に努めました。

また、気候変動による当社グループの事業への影響につきましては、「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)」が求める開示項目を参考に、リスクへの対策など、今後の対応を検討しております。



当社ホームページ「IR情報」から「統合報告書」をクリックしてご覧ください。

▶ <https://www.ybhd.co.jp/ir/integrated-report.html>

(株)ワイ・シー・イーは、日本で唯一の橋梁保全を専門とするコンサルタントとして、ご発注者様より高い信頼を得て、事業を拡大しております。

業務範囲は、鋼橋を中心とした小規模橋梁から長大吊橋迄を対象に、橋梁の維持管理に関わる点検・調査・実験から設計を行っております。特に設計は、劣化部の補修・耐震補強・改築から架替までと広範囲に亘っております。近年は、日本全国でライフラインの急激な老朽化が叫ばれるようになり、特に老朽化した全国的高速道路橋においてはリニューアル工事が進められております。



橋梁点検車による下面点検



塗膜劣化調査

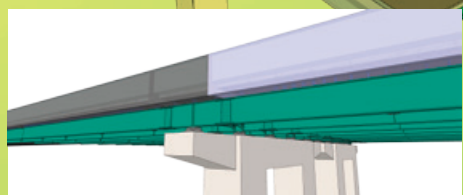
中国自動車道(特定更新等)川西高架橋他4橋床版取替基本設計

中国自動車道(特定更新等)川西高架橋他4橋床版取替基本設計は、数多く実施致しました床版取替設計業務の1つで、6車線と広幅員の連続高架橋を対象に、交通抑制期間の短縮・構造物の維持管理性の向上に繋がるよう、床版取替の計画設計だけでなく鋼橋本体の改造設計も提案して行った基本設計業務です。

当社は、横河ブリッジホールディングスグループで培われた高い技術力をベースに、老朽化した構造物の点検・調査・補修設計から複雑で制約条件の多い大規模な更新に係わる設計まで広範囲に及ぶお客様のニーズに応えるべく研鑽を積んでまいります。



施工計画概要図



橋梁本体の改造

高速道路の健全性を確保し、 高速道路ネットワークの機能維持のための大規模更新・修繕事業に参加

中国自動車道は、1970年に日本で初めて開催された日本万国博覧会（大阪万博）とともに順次開通し、1983年には、大阪府の吹田JCTから山口県の下関ICまでの全線が開通し、関門橋を介して関西と九州が初めて結ばれ、西日本の大動脈として、暮らしや経済に欠かせない高速道路です。

時代の変化とともに、交通量の増加や車両の大型化、凍結防止剤による塩害などにより、開通当初の想定を超える大きな負担がかかり、鉄筋コンクリート床版がひび割れ、鋼製の桁にき裂が生じるなど損傷が進行しています。

これからも安全・安心に中国自動車道を利用できるように、耐久性に優れた部材への取替や補強など、最新の施工技術を駆使し、大規模なリニューアル工事が行われております。

今回は、(株)横河ブリッジが共同企業体で受注し、施工中の中国池田IC～宝塚ICのリニューアル工事の内容についてご紹介いたします。



鋼桁架設状況



220tオールテレーンクレーン組立

中国池田IC～宝塚IC

リニューアル工法①



3分割施工

上下線合わせて6車線ある幅の広い道路であるため、4車線の通行帯を確保し、3段階に分けて橋桁の取替工事をを行います。

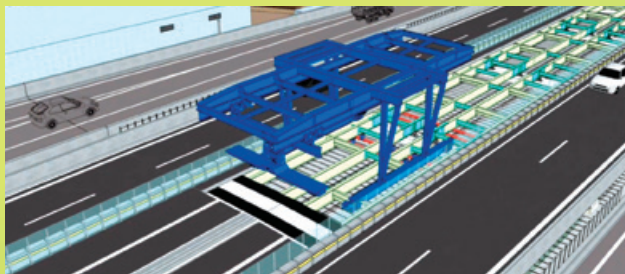
リニューアル工法②



桁・床版の架替工法:220tクレーンの活用
宝塚ICに近い安倉・荒牧高架橋では、大型クレーン車を工事の最盛期には10台以上同時に使用して、鉄筋コンクリート製の橋桁を、鋼鉄製の桁に取り替えます。



リニューアル工法③



桁・床版の架替工法:門型クレーンの活用

中国池田ICに近い川西高架橋は、伊丹空港に近く、高さ制限を受け、大型クレーン車を使用することができないため、特別に製作する門型のクレーン車で橋の架替を行います。



四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前 期 末 2021年3月31日現在	当第2四半期 連結累計期間末 2021年9月30日現在
資産の部		
流動資産	104,632	100,666
固定資産	65,062	64,347
有形固定資産	39,072	39,145
無形固定資産	1,474	1,733
投資その他の資産	24,516	23,467
資産合計	169,695	165,013
負債の部		
流動負債	40,789	41,539
固定負債	24,960	16,509
負債合計	65,749	58,049
純資産の部		
株主資本	94,860	98,612
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,185	10,185
利益剰余金	79,140	82,822
自己株式	△ 3,900	△ 3,829
その他の包括利益累計額	6,269	5,527
非支配株主持分	2,815	2,823
純資産合計	103,945	106,964
負債純資産合計	169,695	165,013

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2021年4月 1日から 2021年9月30日まで
売上高	68,395	61,838
売上原価	55,873	51,028
売上総利益	12,522	10,810
販売費及び一般管理費	4,229	4,652
営業利益	8,292	6,157
営業外収益	293	330
営業外費用	268	271
経常利益	8,317	6,215
特別利益	3	1,135
特別損失	69	20
税金等調整前四半期純利益	8,251	7,330
法人税等	2,565	2,326
四半期純利益	5,685	5,004
非支配株主に帰属する四半期純利益	129	79
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,556	4,925

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2021年4月 1日から 2021年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,320	15,639
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,730	△ 1,260
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,332	△ 8,323
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 23	5
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 6,742	6,061
現金及び現金同等物の期首残高	22,739	19,592
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,997	25,653

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

社名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111 (代表)
資本金	9,435百万円
主な機能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

役員一覧

代表取締役会長	藤井久司
代表取締役社長	高田和彦
常務取締役	高木清次
常務取締役	宮本英典
取締役	栗原一也
取締役	小林明
取締役	亀井泰憲 (社外取締役)
取締役	黒本和憲 (社外取締役)
取締役	天野玲子 (社外取締役)
常勤監査役	廣川亮吾
常勤監査役	大島輝彦
監査役	志々目昌史 (社外監査役)
監査役	八木和則 (社外監査役)
監査役	吉川智三 (社外監査役)

株式の状況

発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	45,564,802株
株主数	5,945名

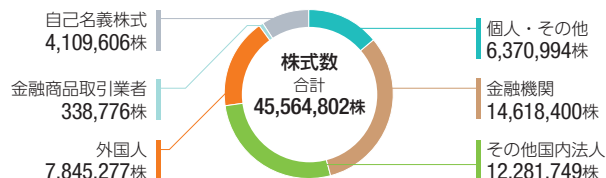
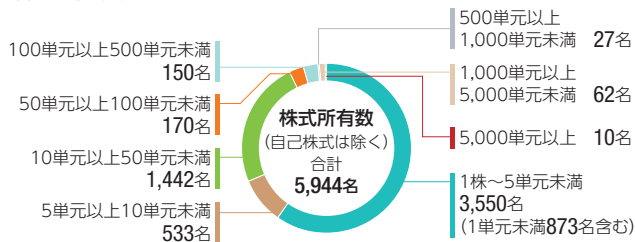
大株主 (上位10名)

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	5,643	13.61
(株)日本カストディ銀行(信託口)	4,024	9.70
横河電機(株)	2,234	5.39
日本製鉄(株)	1,987	4.79
(株)日本カストディ銀行(信託口9)	998	2.40
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	890	2.14
住友不動産(株)	674	1.62
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	618	1.49
日本生命保険相互会社	543	1.31
三井住友海上火災保険(株)	514	1.23

(注) 1. 当社は、自己株式を4,109,606株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	https://www.ybhd.co.jp/



表紙の写真

大栃橋

所在地：高知県香美市物部村大栃
鋼量：564 t (当社グループ施工分)
型式：鋼中路式ニールセンローゼ橋

物部川上流の永瀬ダム湖を跨ぐ国道195号大栃橋は、アーチ支間170mの鋼中路式ニールセンローゼ橋です。ケーブルエレクション斜吊工法を採用し、架設時には高さ約50mの鉄塔を設置しました。隣接する旧橋(赤色)は、1955(昭和30)年に横河ブリッジが手掛けたボルチモアトラス橋です。



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL. 03-3453-4111 (代表) <https://www.ybhd.co.jp/>

当社のホームページもご覧ください。

<https://www.ybhd.co.jp/>

当社のホームページでは、企業情報のほか、グループ各社の事業紹介、IR情報に加え、サスティナビリティなど様々な情報をタイムリーに発信しております。是非アクセスしてみてください。



トップページ

YBHD公式動画



当社ホームページの「サスティナビリティ」から「動画ライブラリ」をクリックしてご覧ください。

当社グループの仕事を、迫力ある映像にてご紹介いたします。夜間作業や様々な橋梁技術を「YouTubeチャンネル」でご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/channel/UCQ36ZbBgG3yPPBfUyPsL8g>

